

秋山郷をたのむミニミニマガジン

akiyama
郷〜ミル

Take free

Vol.6

総集版



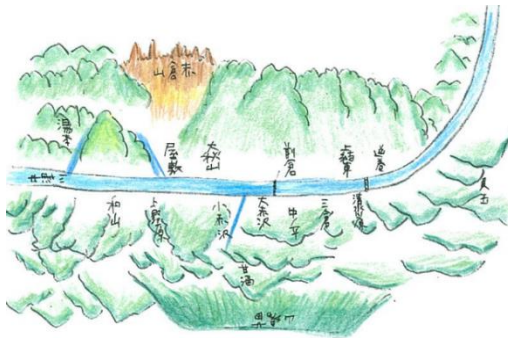
秋山ジャーニー

~旅のえとせとら~

「秋山記行」鈴木牧之と秋山郷／山の暮らしと四季のこっつお

「秋山記行」 牧之の秘境旅

文政十一年九月八日、越後塩沢の文人鈴木牧之は友人の十返舎一九に勧められ秘境探訪記を執筆すべく平家落人伝説で知られていた秋山郷を訪れました。案内人の桶屋と共に旅に出た牧之は、秘境の奇異な珍エピソードを期待していました。しかしそこで出会ったのは自然の中でありのままに力強く生きる人々の姿でした。険しい峠道を通り旅は七日間にわたりました。季節は晩秋の半ばで塩沢の十倍寒かったと語っています。旅の途中で一休みした民家には立派な茶器は無くとも、山の清らかな水と、惜しげもなく薪を使って沸かした湯でいれたお茶は里のお茶よりもひとしお美味しかったようです。山仕事が大好きで毎日毎日夜明けから



秋山は鈍き事古
硯のごとく。神の
時代そのままの
長寿のようだよ。



鈴木牧之さん

日暮れまで山稼ぎするという老人に感心し、秋山には盗人も賭博も争いも無くただ昼夜働くだけとの話に「秋山の人々は追従もせず落ち着き、世の中を安楽に過ごそうという心がけは里人はとても及ばない」と肝に銘じて思いました。牧之は秋山を「事足れりとする賢者のすみか」言っています。夜具はなくとも家族が寄り添い、あるもので暖を取り、土地相應の柵や樞を採ってよく食べ、髪は無造作で着物は質素でも美しい。秋山の人々は真っ正直で天の恵みを自然に守り継ぎ、聖人たちの世の中のような印象だと感じたようです。質屋のお金持ちの旦那様だった牧之にとっては山奥の質素な暮らしは、一際かけ離れたものに感じられたようでしたが、大自然の絶景とその一つとして生きる秋山郷の人々に強く心を動かされたのです。



秋山郷の春は
来てくれるのが遅いけど
それだけ待ち遠しくて
とても嬉しいんだ

秋山郷に山桜の花が咲くのはゴールデンウィークを迎える頃。それまでは雪がちらつくこともあり、なかなか気が抜けません。村を包んでいた厚く重たい雪が、少しずつ陽に溶かされていくのを日々見つめながら土が姿を現す時を待っています。雪から頭を出したばかりの透き通るような淡いイエローのフキノトウは、灰汁もごく少なくなほのかな甘みを感じられます。豪雪の秋山郷ならではの特別なものです。もしかすると厳しい冬を乗り越えた山からの贈り物なのかもしれませんね。



のっとくなくなると
じっとしてらんねんだてへ。
鳥のさえずりと
母ちゃん達のしゃべっちょよ、
父ちゃん達はせせせと雪囲いの
片付けして黙々と薪割りしてらんだ。
そろそろ畑の野菜の苗つくらんに
種植えるかな。



山菜の旬は一瞬なので長く食べられるように工夫して調理するよ。採れたてはシンプルに食べるのが一番うまい！

山菜はみな採らな人ねんど。毎年要るぶんだけ採らんだよ。



苗場山は雪解け水と雨水をしっかり蓄え、麓に湧いた清らかで、豊富な水を秋山郷の人々は生活や農耕などに利用しています。また山から下りる幾つもの美しい沢には岩魚や様々な生き物が生息しています。昨今は秋山郷でも真夏は猛暑になる日もありますが、それもほんの半月も堪えれば過ぎ去り涼やかな山の風の中で過ごすことが出来ます。訪れる人々は登山、川遊び、キャンプ、溪流釣りなど秘境の大自然を謳歌し身も心も解放され忘れがたき体験となる事でしょう。

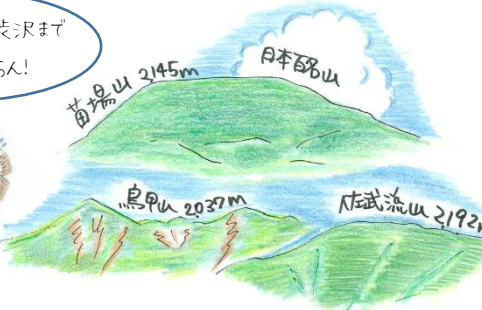


苗場の山は大いなる水瓶
その潤いに満ちて
たくさんの命が
短い夏を駆け抜ける

夏

志賀高原から沢沢まで
釣り人にはたまらん!

深流釣漁期は
3/16~9月末まで



田植えするまでは忙しやんだてえ。だすけ昔は田休みつつつてごつおしていつペやつたんぞー。秋山はいつペ雪あつて溶けらんが遅えすけ6月になんねえと田植えしねんだ。山で作ったコメはおんめーど！食ってみらっしやい!



根曲がり竹
(チシマザサ)

6月中旬から7月上旬
にかた村人達は
竹の子採りに山へ
収穫後は皆で煮ます。

竹の子汁

みんなが食べらんがおんめーんだて!



タケノコの皮をいいて節を落として一煮立ちさせて灰汁をすく。じゅがいも、たまねぎ、魚青虫、だしを入れて煮る。味噌を溶かして完成!

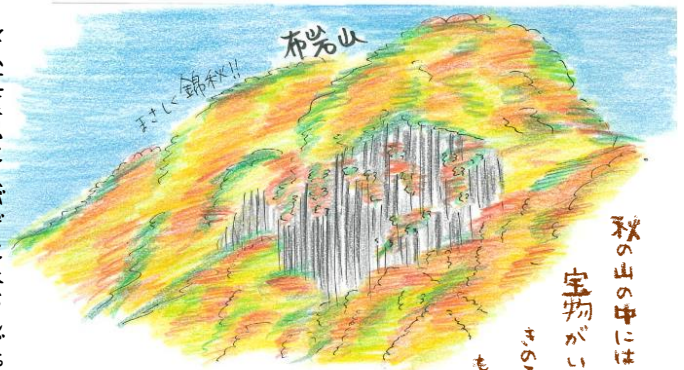
タケノコ採りはヤブの中入つていかんだすけ、ちゃんと装備してかねえと。クマも出てくるころだすけクマ鈴も忘れちゃなんねえ。夢中になって山の中に迷うな。えいっけれ。



お盆を過ぎれば空が高くなってススキが穂を揺らし始めます。祭りが済む頃には山がうつつすらと黄色味を帯びてきて、黄金色の稲を刈り入れる頃には朝晩はぐんと冷え込んで、ストーブの出番がやってきます。山の色づきが進むごとにその美しさを一目見ようと、訪れる人の数も増え秋山郷は一年で最も賑やかな季節を迎えます。でも、もうすぐ厳しい冬がやってくると思うと少し寂しくもあるのです。きのこと探しや冬支度に忙しくしているうちに気づけば雪が舞い始めます。



ふがふが落ち葉の道を
目を凝らして進む
山の宝物見つければ
喜んで舞い上がるよ



秋の山の中には

宝物がいっぱい

まのこは天然は
もちろんの事

秋は紅葉見に人がげに來らんだ。
でも昔はもつと綺麗だったんだ。
赤がもつとげに出てたなあ。
あー、秋は賑やかで良いやんだ、
稲刈りもするし忙しやんだて。
あー、じきに雪が降らあ。

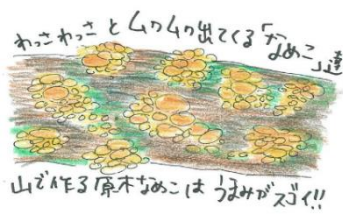
栃 (とち)

秋山郷を象徴する植物。
木は木鉢やコスキの材料に、実は時間をかけて灰汁を取り餅やあっぱに入れて食べます。

栽培だ、って山の中で
育つから美味しさが
格別に違うよ



山のまのこはおんめんど
これか鉢の
楽しめたら



山で採る原木まのこはうまがスゴイ!!



なめこの石づきを取り
水に浸してゴミを浮かせ
よく洗う。
サッとゆでて
大根おろしと和える。
醤油を少したらず。

なめこのおろしあえ

以上



厳しい冬だからこそ
 心を寄せ合って
 炎に込めた思い
 空に届きますように

雪は本当に厳しい。激しく吹き付けて、辺り一面真っ白になればあつという間に行き先を見失ってしまいます。一晩中降り続け朝になれば雪の壁ができます。夜明け前、雪の塊を押し割っていく除雪車の音で目が覚め、出かける頃にはすっかり道が出来上がって、おかげでこの厳しい雪の中でも往來が出来るのです。そして祈ります。今年も家族が健康で安全に暮らせますように。山の仕事で無事に帰ってこられますように。実りに恵まれますようにと。



家も心からあたためるとにたく万能・薪ストーブ
 煮るも焼くもおまかせぬ
 広葉樹の灰はとても役に立つよ



鎮守様へお参りして、いっぺやつてそー皆が元気で暮らせればそれが一番いいやんだ。雪がげにあるすけ山菜もおんめえし水もげに凍かんだすけ雪にも役があらんだなあ



伝統の秋山木鉢
 作りは冬の仕事です

手間暇かける冬の味
 冬だからこそ、じっくり煮たり焼いたり
 心温まる手作りの味が嬉しい
 おしゃべりしながらのお茶飲みも冬ならではの光景です



秋山ジャーニー 旅のえとせとら 編集後記



鈴木牧之が秋山郷を旅したのは今からおよそ二百年前、その頃の秋山郷では稲作もまだで、山のあるものを生かしてゆつと畑で少し作物を作り始めたくらいでした。昭和になって水力による電力開発が始まり、戦後の開拓が始まり秋山郷にも近代の波が押し寄せ、やがて観光地としての推進が始まりました。現在の秋山郷ではそれなりの不便はあるものの里の現代的な暮らしとほとんど変わりません。ですが秋山郷の人は山の木で暖をとって、山菜や栃の実、茸、岩魚など山から恵みを得て、保存の技で冬に備える。今でも山に寄り添った暮らしが当たり前にあります。「事足れりとする賢者のすみか」鈴木牧之が出会った時の秋山郷の面影が今も残っています。今の秋山郷に特別な華やかなものも目新しいものは無いかもしれません。ですが二百年前と同じように深く大きな山と豊かな水に包まれ、屈託のない人々の笑い声。素材だけでも滋味な山の味。そして四季折々変わる鮮やかな山の美しさは、旅の記憶として心に焼き付けるには十分すぎるほどです。訪れる人にとって旅とは「非日常」。初めて出会った景色の中にまだ見ぬ暮らしの姿を探してみてください。

編集制作・杉森奈那子

秋山郷花ろろミニマガジン

akiyama郷〜シル

バックナンバーのご紹介

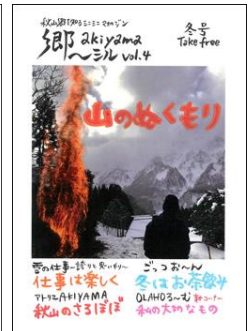
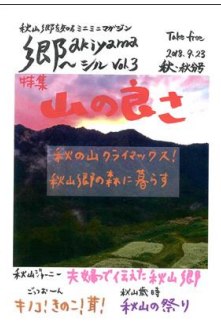
<http://www.vill.sakae.nagano.jp/docs/1007.html>

QRコードからも見れます



秋山郷を四季ごとにご紹介した「郷シル」全号をインターネットからご覧いただけます。

郷土米産地や地元の方々のお話を似顔絵さんと共に掲載しています。観光だけではわからない秋山郷のディープな魅力を是非ご覧ください。



秋山郷へこらっしゃい！！

お車でお越しの方

関西東海方面から
 豊田飯山IC ~ (十日町方面)
 →R 117→R 405

関東方面から
 塩沢石打IC ~ (長野方面)
 →R 117→R 405

信州中野IC ~ (志賀高原方面)
 →奥志賀経由秋山林道

電車でお越しの方

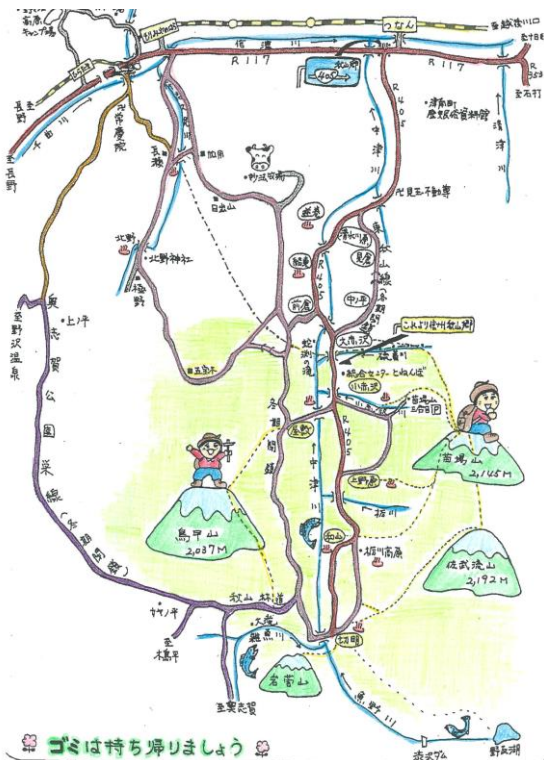
関西東海方面から
 JR 飯山線津南駅
 →徒歩 (タクシー) で
 (南走峠後観光バス) 津南バス停
 →見玉バス停→秋山郷デマンドバス

関東方面から
 JR 北越後湯沢駅→
 南走峠後観光バス (森宮野原行) →
 津南バス停→見玉バス停
 →秋山郷デマンドバス

秋山郷デマンドバスは前日 PM5 時まで
 事前予約が必要です!!

「森宮交通」
 025-766-2949
 または 0269-87-3110 まで

山タク (山のタクシー) 始まります。
 2019年10月1日スタート
 秋山地区内をご利用いただける
 地域内タクシーです。
 問い合わせ・ご予約
 TEL 080-9299-7143



🍁 ごはんは持ち帰りましょう 🍁

津南町 大割野		津南町 見玉		和山	
注南発 7:45 乗	料金は 600 円	和山 6:30 乗			
津南着 10:29	見玉発 10:05	見玉着 10:00	和山 9:00 乗		
津南着 18:03	見玉発 17:39	和山着 17:30	和山 16:30 乗		
料金は 330 円		料金は 600 円			
津南発 11:25	見玉着 11:46	見玉発 11:50	和山 12:50 乗		
津南発 14:00	見玉着 14:21	見玉発 14:30	和山 15:30 乗		
津南発 17:17	見玉着 17:34	見玉発 17:40	和山 18:40 乗		

お問い合わせ先
 取材・編集・発行
 栄村秋山地区地域おこし協力隊
 杉森 奈那子

Mail akiyama-s@vill.sakae.naganano.jp
 〒949-8321 長野県栄村大字塚 18281
 栄村役場秋山支所「とねんぼ」
 TEL 025-767-2202